

Get Heart

NO 31
2005.9



人物紹介

日野川河川清掃ボランティア
宮崎 不三夫 さん

学校紹介

「ふるさとの水・川」をテーマに
水の大切さを学ぶ
江尾小学校

日野川「もの知りさんに聞いてみよう18」
「水防と水防工法」とは



イベントあんない

INFORMATION



米子市

「大山と遊ぼう！ 大助・花子の健康ウォーキング大会」

平成17年10月2日(日)
米子市淀江町～大山一円
問い合わせ先.....米子市観光協会
TEL 0859 - 37 - 2311

伯耆町

「福岡神社(蛸大明神) ・蛸舞神事(日本三大奇祭)」

問い合わせ先.....伯耆町役場・商工観光課
TEL 0859 - 68 - 4214

「米子城山フェスティバル / 城山歴史散策ウォーク」

平成17年10月23日(日)
湊山公園(米子市西町)
問い合わせ先.....米子市観光協会
TEL 0859 - 37 - 2311

南部町

「第18回緑水湖畔健康マラソン大会」

平成17年10月16日(日)
問い合わせ先.....南部町教育委員会
「緑水湖畔健康マラソン大会」係
TEL 0859 - 64 - 3487

平成17年7月31日(日)「了川の楽校」を開催しました。

Get heart プレゼントクイズ

問題：〇〇には何が入るでしょうか？

〆切 10月10日

江尾小学校の子ども達は、地元で流れる〇〇川に入った体験をもとに学習に取り組んでいます。 ヒント：船谷川は、「江尾十七夜」で魚のつかみ取りが行われ、子どもたちになじみ深い川です。

プレゼントをご希望の方は、官製ハガキに、クイズの答え、住所・氏名・年令・電話番号、Get heart に関するご感想を記入の上、下記までご応募下さい。抽選にて、5名様に粗品をさしあげます。当選者の発表は、発送を持ってかえさせていただきます。

〒689-3537 米子市古豊千 678
国土交通省 日野川河川事務所 ゲットハート クイズ係

編集後記

残暑でうだるような暑さの中、朝晩についてはようやく涼しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回取材に伺ったボランティア活動を行う団体や、小学校の総合的学習で実践しているような内容を小さいうちから学ぶ子供たちが増えることで、水や川などの自然環境が美しい状態で未来へ引き継がれていくのではないかと思います。

K.I

あなたのこころを

GET HEART

GET HEART
第31号

発行
・日野川への想いを語る会

編集事務局
・国土交通省日野川河川事務所

〒689 - 3537
米子市古豊千 678
TEL (0859) 27 - 5484

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>



第8回 日野川フォトコンテスト

作品募集

ふるさとの川を見つめて…

応募要領

応募対象作品 / 日野川流域の河川
テーマ / 「ふるさとの川を見つめて…」
応募資格 / だれでも応募できます。

応募締切 / 平成17年9月30日(必着)
審査発表 / 平成17年11月予定(入選者に直接通知)
表彰 / 平成17年度日野川への想いを語る会

応募部門

一般Aの部...頂点を目指す

腕に自信のある方、これはという作品を応募してください。
サイズ/カラープリント、白黒ともに四ツ切り

一般Bの部...気軽に写そう

コンテストを意識しないで、だれでも気軽に川の風景などをとらえたものを応募してください。
サイズ/カラープリントのサービスサイズ

小・中学生の部...みんなでチャレンジ

小・中学生のみなさん気軽にスナップ感覚で応募してください。
サイズ/カラープリントのサービスサイズ

各部門賞

一般Aの部

金賞.....賞状・賞品(1点)
銀賞.....賞状・賞品(3点)
銅賞.....賞状・賞品(5点)
佳作.....賞状・賞品(若干名)

一般Bの部

入選.....賞状・賞品(5点)
佳作.....賞状・賞品(若干名)

小・中学生の部

入選.....賞状・賞品(5点)
佳作.....賞状・賞品(若干名)

応募先
国土交通省日野川河川事務所
「日野川フォトコンテスト」係
〒689-3537
米子市古豊千678
TEL(0859)27-5484(代)



応募上の注意

- 1人5点まで応募できます。(組写真は、1組を1点とします。)
- 未発表の自作品に限りです。
- 応募作品は返却しません。
- 入賞作品の著作権及び著作権は主催者に帰属します。
- 入賞者にはネガフィルム等(返却しません)の提出を求めますのでご注意ください。デジタルカメラによる入賞作品は、その作品作成時のデータを提出していただきます。APSカメラによる入賞作品は、その作品が記録されているAPSフィルム全てを提出していただきます。
- 応募作品の裏面に応募票を貼付し提出して下さい。(応募票はチラシ裏面に印刷してあります。また、自作されても結構ですが、住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別・電話番号・職業又は、学校名(学年)・作品名・撮影場所(河川名も)・簡単なコメントを書いて下さい。)
- 応募票には応募部門を明示して下さい。

主催 / 日野川への想いを語る会

国土交通省日野川河川事務所・鳥取県西部総合事務所、鳥取県日野総合事務所
米子市、南部町、伯耆町、日吉津村、日南町、日野町、江府町

共催 / (社)中国建設弘済会 協賛 / (株)山陰フジカラー

日野川の生きものたち④

鳥



カワセミ

カワセミは、ブッポウソウ目カワセミ科に属し、川の宝石と呼ばれているきれいな鳥です。

全長17cm程度で、長く鋭いクチバシで背が青で翼が緑、腹がオレンジ色の鮮やかな風貌をしています。全国の海岸や河川、湖沼に広く分布しており、日野川流域でもほぼ全域に見られ、水面に張り出した木の上で休む姿や、市街地でもエサを探すカワセミを見ることができます。

えさは、枝の上やヘリコプターのようにホバリングで小魚を見つけ、ダイビングしてとらえます。川の土手などの土に穴を掘って巣を作りますが、水から離れたところにも作ります。

魚



ヨシノボリ

ヨシノボリは、ハゼ科・ハゼ亜科・ヨシノボリ属に属している魚です。最大の特徴は、腹びれが円盤状の吸盤になっていることです。この吸盤で様々なところにくっつくことができ、ヨシノボリという名前も水中の石やヨシに吸い付いている様子から付けられています。

ヨシノボリは全国的に広く分布しており、日野川流域では、シマヨシノボリ、オオヨシノボリ、トウヨシノボリ、カワヨシノボリといった4種のヨシノボリの仲間が確認されています。カワヨシノボリは淡水魚で、中流からかなり上流まで見ることができますが、その他のヨシノボリは回遊魚で、おもに下流域に生息しています。

川に親しむ



宮崎 不三夫さん

日野川河川清掃ボランティア

みやざき ふみお
宮崎 不三夫 さん

M.Club 会長

西伯郡伯耆町三部に事務局があるスポーツ総合企画団体「M.Club」の会長を務める宮崎さん。クラブの主な活動内容は、軟式野球やゴルフ、サッカーの青年スポーツクラブ活動のほか、子ども達を対象としたこれらスポーツ教室の開催、そして大山の緑化活動や日野川河川清掃のボランティアなど多岐にわたっています。平成15年7月の発足以来、現在の会員数は鳥取県西部を中心に、関東・関西の方も含め300人以上を数えるそうです。

「M.Club」が目指しているのは「青少年の健全育成」です。宮崎さん自身、若いころから野球やボクシング等してきたスポーツマンで、クラブの発足以前にも地元の野球部活動に参加したり、本業である建設会社で10年前から会社ぐるみで地域の清掃ボランティア活動を行ったりと、青少年の健全育成と地域活動を精力的に取り組んでこられ、これらの活動をもっと積極的に展開していきたいとの思いから「M.Club」を発足されたそうです。

「大きなことは出来ないけれど、人の役に立つことをしたい」と、発足時の思いを語る宮崎さん。昨年からはスポーツ以外のボランティア活動として、溝口警察署をはじめ地域の協力を得て「日野川河川清掃ボランティア」を本格的にスタートしました。「自然にふれ合って初めて、人の気持ちがわかるようになる」という思いからの開催で、「鬼守橋の交差点で信号待ちの時に、吸殻や空き缶を放り投げてしまう方が多いのでしょうか。かなりのゴミが集まりました。初めて日野川に来たという子どももありましたし、参

加したみんなが日野川の自然の中で汗を流し自分達の力で日野川をきれいにしたというよこびを感じてくれたのがうれしいですね」と感想を語っています。第1回の昨年は約160人が参加。第2回の今年も約250人が参加して大いにぎわいました。

「私も子どものころには、近所の野上川で魚を獲って遊んでいましたが、今はなかなか魚がいないですよ。県外の会員も『日野川で最近、鮎がなかなか釣れない』と残念がっていますよ。昔の日野川をとりもどしたいですね」と宮崎さん。

発足から丸2年を迎えて、会員も増加しているそうです。「子ども達向けの野球教室やサッカー教室に魅力を感じて入会された若いお父さん、お母さんも多いです。もちろんその後、日野川河川清掃にも積極的に参加されていますよ。もともとボランティア精神をもっておられる方が多いのですね」といいます。

クラブ名の由来について「M.Clubの「M」は「宮崎」のMでしょうか？とよく言われるのですが(笑)実は「みんな」のMであり「溝口」のMでもあります。地域のみんが一緒になって活動すること、町村合併で無くなった地域への愛着を、それぞれ名前に込めているんですよ」と笑顔を見せる宮崎さん。「鳥取県西部を拠点に活動を続けていながら、少しずつクラブを良いものにし、そして地域の発展に貢献していきたいですね」と今後の抱負を語っています。



日野川、大山での清掃ボランティアやスポーツ教室の様子



- 表紙「パラサーフィン」 -

大山の雲をバックにした若者の力強さ、巧みな技、スピード感あふれる走行に目を奪われた。ウィンドサーフィンでもパラセイリングでもない。名前がわからなくて自作の造語。

第7回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 銀賞 富士原 寿和さん
撮影場所：日野川

日野川流域
ものしり手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・18

すいぼう すいぼうこうほう 水防と水防工法

梅雨の季節、台風の季節に「水防」という言葉を耳にされると思います。最近では異常気象等による洪水被害により特に耳にする機会が増えました。台風シーズンを前に今回はこの水防についてお話ししたいと思います。

「水防」は川が大雨により増水した場合に、堤防の状態を見回り、堤防などに危険なところが見つければ、壊れないように土のうを積んだり、シートを設置したりして堤防を守る活動などのことです。具体的には市町村で組織する水防団や消防団が積み土のう工法(写真)や月の輪工法(写真)、シート張り工法(写真)などの「水防工法」を実施して、堤防が壊れないようにします。

堤防が壊れると泥水が家屋、田畑等に流れこみ大きな被害をもたらします。これを防ぐ水防活動はとても大切で、鳥取県では毎年「水防訓練」を行い、もしもの場合に備えています。(今年は東部の千代川で行われました)

みなさんも水害が発生したときに家族全員が安全に避難するにはどうしたら良いかなど、一度、家族で話し合ってみてはいかがでしょうか。

積み土のう工法

洪水が堤防を越すようになった時に土のうを積んで水が川からあふれ出すのを防ぎます。



月の輪工法

洪水で堤防から水が吹き出すと、そこから堤防が壊れます。このため、土のうを積んで水をため、その水圧で堤防から漏水を抑え、堤防が壊れる事を防ぎます。



シート張り工法

堤防川側が欠けた場合や漏水防止のため堤防に合成繊維シートを張り堤防が壊れるのを防ぎます。



川で学ぼう

～川とふれあう学習～

『ふるさとの水・川』を テーマに水の大切さを学ぶ』

江尾小学校

江尾小学校では、今年の4年生の「総合的な学習の時間」のテーマを『ふるさとの水・川』として、一学期から二学期にかけて勉強しています。江府町は、町内から湧き出る奥大山の源流水を原料に天然のミネラルウォーターや地ビールを全国販売するなど、水を活かした地域づくりを進めている町です。この学習を担当している加藤尚子先生によると、児童たちは水が江府町の自慢の一つだと理解し、暮らしに身近な水について一度勉強してみたいという気持ちが強かったそうです。

総合学習は、児童自身が追求したいテーマを決めて、調べて学んでいく授業です。まず4年生の児童20名が四つのグループに分かれて、町の暮らしの中で身近な「湧き水」について、その特徴や生活・農業での使われ方などを調べました。続いて7月には、日野川の支流で町内を流れる船谷川に全員で入って体験学習をしています。



江府町立 江尾小学校

明治6年に第133番小学江尾学校として開校した歴史のある小学校です。児童数は112名(平成17年5月1日現在)。「学びを創造しよう! 自ら進んで」をテーマに、「確かな学力の育成」「認め合い支え合う人間関係づくり」「児童の心を育むコミュニティづくり」など、自分の思いを大切に、自ら進んで学びを創造し、人とふれ合いながら自分のめあてや夢に向かってチャレンジし続ける児童の育成を目指しています。

船谷川は、地元の祭り「江尾十七夜」で魚のつかみ取りが行われるなど、子ども達にとって身近でなじみ深い川です。体験学習では、ペットボトルで水中メガネをつくって、「川の水の中をもっと知りたい」とのぞき込む児童たちもあったそうです。船谷川での学習も、川に入れたことの喜びをきっかけとして「釣りをしてみたい」「ごみをひろいたい」「虫を調べたい」と興味がどんどん膨らんでいきます。

加藤先生は、「この学習を通じて暮らしの中の水に興味と関心を持って、自分たちの住んでいる江府町が自然に恵まれていることのありがたさを感じてほしいです。町の人が自然を大切にしたい町づくりに取り組んでいることも理解して、子ども達にも取り組んでほしいですね」と話しています。



船谷川での体験学習の様子

